



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2022年8月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
https://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

「J P 子どもの森づくり運動」とご縁をさせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



今夏も、全国で豪雨災害が発生しております。被災された方々には、心よりお見舞い申し上げます。

温暖化によると思われる、世界的な気候変動の流れが止まりません。

そんな気候変動の時代を生き抜く子どもたちへの環境学習活動が、ますます重要です。

今月号では、環境学習の取り組み事例としての「どんぐり劇団」の活動をご紹介します。

(写真は、「浄心こどもの城」の植樹会で植えられた苗木です。)

(目次)

1. 「どんぐり劇団」環境学習活動～一緒にかんがえよう！ぼくとわたしのSDGs～
2. 活動レポート：岐阜県「浄心こどもの城」植樹活動
3. J P 子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内
4. リレーエッセイ（2022年8月号）
5. お知らせ：「園庭緑化運動」が「第16回キッズデザイン賞」を受賞しました。

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。

しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

- ・運営：NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
- ・特別協賛：日本郵政グループ
- ・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会

郵便局の魅力を発信するメディア「JP CAST」は
下記QRコードからご覧いただけます。

郵便局の魅力を発信するメディア

JP cast



1. 「どんぐり劇団」環境学習活動～一緒にかんがえよう！ぼくとわたしのSDGs～

JP子どもの森づくり運動では、幼児(少)期の環境学習活動の一環として、子どもたちにお芝居の力によって、森の楽しさや森の生態系の大切さを体感してもらうための取り組みとして「どんぐりSDGs劇団」の活動に取り組んでいます。演じるのは「どんぐり〜ず」（「東北復興グリーンウェイ」のアンバサダー）のお二人。演題は『どんぐりの森のドンちゃん和グリちゃん』です。どんぐりの森に住む「どんぐり〜ず」が、いろいろな動物たちとの出会いや様々な体験の中で、森の大切さ、森に住むものはみんな仲間、互いに分かち合う心（共生の心）が大切なことに気づいていくお話しです。

今回は、品川区立環境学習交流施設「エコルとごし」の環境学習ワークショップとして開催された、「どんぐりSDGs劇団」の活動をご紹介します。「エコルとごし」は、自然豊かな戸越公園内にあり、体感を重視した展示や多彩なイベント・講座で、環境を楽しみながら学べる施設です。今回は、そんな環境を活用した、子森ネット塚原代表による自然体験講座とお芝居を組み合わせたプログラムを提供しました。ワークショップは大好評で、これからも「エコルとごし」において、定期的実施される予定です。

*日時：2022年7月18日（月・祝）10：00～11：30（90分）

*場所：品川区環境学習交流施設「エコルとごし」 *参加者：40名（小学生3年までのこどもと保護者）



多目的ホールでネイチャーゲーム「ノーズ」を実施



どんぐり劇団による『どんぐりの森のドンちゃん和グリちゃん』を上演



どんぐり劇団のお芝居は、大好評でした。



戸越公園内の広場でネイチャーゲームを実施



自然いっぱいの戸越公園

「エコルとごし」における「どんぐり劇団」のワークショップの様子が、品川区のホームページで紹介されています。以下のQRコードからご覧いただけます。（写真：品川区ホームページより）



2. 活動レポート：岐阜県「浄心こどもの城」植樹活動

岐阜県「浄心こどもの城」では、2013年から、自立的に子どもの森づくり活動を継続しておられます。保護者による、草刈り等、植えられた苗木のお世話も、毎年、年間行事として保育活動に組み込まれた、恒例の活動となっています。JP子どもの森づくり運動を自園の自然保育活動として消化された、素晴らしい活動です。今年も、同園で6月に植樹会が開催されました。敬意をもって、活動内容を杉山園長先生のレポートでご紹介します。* 活動の詳細は、ホームページをご覧ください。

* 日時：2022年6月11日(土) * 植樹会場：油坂さくらパーク（岐阜県郡上市白鳥町）

* 参加者：5歳児親子（園児29名・保護者40名・兄弟姉妹12名・職員4名）

* インストラクター：福井県大野市「大野幼稚園」藤園長先生 * 活動内容：植樹活動、ネイチャーゲーム

梅雨入り目前で天候が心配されましたが、予定されていた日程通りに行くことが出来ました。準備した30本のコナラの苗を一家族1本ずつ植樹しました。植樹後には、大野幼稚園の藤園長先生から「親子で静かにお散歩して自然の音を聞いてきてください。」という自然を体感できるゲームを行っていただき、15分くらい散策してもらってから「どんな音が聞こえたかな。」という問いかけに子どもたちが小鳥のさえずりや風の音が聞こえたと報告してくれました。

「油坂さくらパーク」での植樹は、平成25年から毎年休むことなく行っており、今年で10年目という節目の年となりました。10年前に植樹したドングリの木は3メートルくらいの大きさとなっており、植樹会と一緒に参加した小学生は数年前に自分が植樹した木を探していました。

「浄心こどもの城」園長 杉山 賢



活動植樹



ネイチャーゲーム



記念撮影

3. JP子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」2022年度オンライン講座のご案内

JP子どもの森づくり運動では、「国際校庭園庭連合日本支部」との共催で、多様な園庭緑化・自然化、さらに地域資源の活用等を学ぶオンライン講座を年4回開催中です。園庭をテーマにすぐれた研究や活動を実践されておられる素晴らしい講師の方々にご出講いただいております。6月講座、8月講座は終了し、残り10月講座と12月講座の2講座です。全講座、受講費は無料ですが受講者数が限られております。（先着30名）各講座、定員間近となっておりますので、ご希望の方は、急ぎお申し込み下さい。

受講申し込みは、ホームページからお申込みいただけます。

【10月講座】まちを愛でてまちを楽しむ～まち保育のススメ～

* 日時：2022年10月25日(火)14:00～15:30

* 講師：横浜市立大学大学院 都市社会文化研究科

都市社会文化専攻 教授 三輪 律江（みわ のりえ） 先生



【12月講座】園児と自然の生きものが出会う空間の作り方・使い方

* 日時：2022年12月20日(火)14:00～15:30

* 講師：（公財）日本生態系協会 教育研究センター センター長 田邊 龍太（たなべ りょうた）氏



4. リレーエッセイ (2022年8月号)

幼児(少)期の環境教育をテーマに、北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩 (あゆむ) 先生によるリレーエッセイ5回目の連載です。今月号は、言語の獲得のために重要な意味を持つ自然体験の意義についてです。

自然体験への期待～言語の獲得～

北海道教育大学 教育学部岩見沢校 アウトドア・ライフコース 教授 能條 歩



たとえば自然保護について話しあう時に、「自然」という言葉のイメージが人によって違えば、「守るべき自然」のイメージもまた違ってしまいます。イメージが共有されていなければ、「自然保護は大切だよね！」と合意したつもりでも、実は守ろうと思っている状態はぜんぜん違っているかもしれません。誰も自然を守ることに反対していないのに自然破壊が進んでしまう現状は、「自然」という言葉をイメージするための共通体験の不足が原因ではないでしょうか。このように、幼少期における言語の獲得につながる基礎的な自然体験は、大人になって人と自然とのあるべき付き合い方を考えてもらうためにも重要な意味を持つと考えられます。

ところで、「つつつつってどんなこと？」とこどもたちに聞かれたら、みなさんはどのように説明するでしょうか。「すべすべしたもののことだよ」などと説明しても、今度は「すべすべって？」と聞き返されるかもしれません。モノの状態や性質を言葉で説明することは容易ではありませんね。

こうした場合はほとんどの方が「つつつつしたモノを触らせる」のではないのでしょうか。ただ、触ってもらえば一発でわかりそうですが、「つつつつ」はいくつかのモノに「共通する状態や性質」を表す言葉なので、きちんと理解するには多様なモノを触る複数の「つつつつ体験」が必要です。



この例でもわかるように、状態・性質・様子・感触などを表す言葉を使ってコミュニケーションするためには、それらに関する「共通の体験」が必要です。これは相手が大人であっても同じことで、言葉には体験を介さなければ理解できないものがあり、その言葉を理解し合うためには相手と自分の両方に「共通の体験」が必要なのです。「つつつつ体験」のような基礎的な体験は、日常の感覚体験によりいつのまにか得られるものですので、感覚体験の不足は言語の獲得にも支障をきたすと考えられます。したがって、多様なモノがある自然のなかでの感覚体験は言語の獲得のためにも幼児期の重要な発達課題の一つであるといえるでしょう。

【筆者近況】

今年はやや蒸し暑い北海道の夏ですが、北海道では熱帯夜というものほとんどなく、夜は20℃を切っていますので、うっかりすると寝冷えして風邪をひいてしまいかねません。先日庭にエゾシカの群れがやってきました。たまに草を食べにくるだけで突進してくるわけではないのですが、ダニを持ってくることがあるので気になります。自然との共生も言うほど簡単ではないですね。



5. お知らせ：「園庭緑化運動」が「第16回キッズデザイン賞」を受賞しました。

JP子どもの森づくり運動が、国際校庭園庭連合日本支部と三つのモデル園と共に取り組む「園庭緑化運動」が、「第16回キッズデザイン賞」を受賞しました。「キッズデザイン賞」は、「子どもや子どもの産み育てに配慮したすべての製品・サービス・空間・活動・研究を対象とする顕彰制度」（同賞ホームページより）です。子森ネットでは、「園庭緑化運動」の普及・広報活動として、同賞にエントリーしておりましたところ、下記の内容で受賞しました。JP子どもの森づくり運動の活動が、また一つ評価されました。

【受賞作品名】：「園庭緑化運動」子どもたちが自然とふれあえる場を！園庭緑化支援モデル事業 【受賞団体】：子どもの森づくり推進ネットワーク / 国際校庭園庭連合日本支部 仙田考 / 三茶こだま保育園 / エンゼル幼稚園 / こども園ほしのこ
【受賞部門】：子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 【受賞カテゴリー】：コミュニケーション D05.環境教育